

班会で増資を呼びかけよう!

あかるいまち21

No.922号 2016年8月13日 組織部 TEL082-532-1264

	8月累計	4月～7月
組合員ふやし	49人	406人
出資金ふやし	301万円	3,484万円
純増	38万円	298万円

「すこしお」ってこんな味!

7月27日、安芸中央支部では、はじめての料理班会を開催し11名の参加がありました。

今回のメニューは『彩り野菜のうす塩食』です。3月に開催されたけんこうづくり学会で日下先生のお話を聞いた組合員さんから「減塩料理を作りたい!」というリクエストがあり、福島生協病院栄養科が、塩分を一食2g以下に抑えたメニューを考えてくれました。

はじめての料理班会ということでしたが、毎日料理をしている女性陣は慣れた手つきで調理をすすめ、男性陣もレシピを見ながら積極的に参加していました。

出来上がった料理を口にして、「ちょっと味がうすいけどおいしい」「家でも作ってみよう」との感想があがるなど、「すこしお」を頭だけでなく舌でも理解することができ、より実践的な「健康づくり」になりました。



草津の被爆建物を訪ねて

7月23日、草津診療所と西区西支部の共催で「平和企画」が開催され、11名(組合員6名・職員4名)の参加がありました。小西正則さんを講師に迎えて、草津地区の被爆建物を訪



ねて回る、フィールドワークを行いました。いつも見慣れた風景の中で、静かに「あの日」を語る建物が多くあることが分かりました。



8月6日、草津地区は、原爆の光線が家の隅々まで入り、家が揺れ、ガラスは飛散。火の玉のようなものが数個、線を引くように目の前を過ぎ去ったそうです。フィールドワークでは、いくつかの被爆した寺や神社を主に回り、ほかにも被爆樹を回りました。被爆直後、多くの被災者が避難してきた寺や神社がいくつかありました。また、田方の海蔵寺にある桜の老木は、爆心地方向に向いて生えた根っこが成長しておらず原爆の恐ろしさを今も物語っていました。

協同組合がよりよい社会を築きます



広島中央保健生活協同組合

